

課題番号	10	分野名	放射能対策（木材加工）	予算区分	県単
研究課題名	とちぎ製材品（スギ・ヒノキ）の放射能濃度検証				
担当者名	亀山 雄揮・篠崎 武彦・安藤 康裕・大塚 紘平			研究期間	平成24年度

1 緒言

原発事故以降、各方面において安心・安全の確保や風評被害防止のため、放射能濃度測定が行われている。製材品の放射能濃度について国の基準は定められていないが、国の試算では400 Bq/kgを超える木材で囲まれた居室での被ばく量は天然の放射線による被ばく量と比べ著しく小さく（1%未満）人体への影響はほとんどないことが示されている。県内全域の原材料を用いた製材品について産地別に放射能濃度を測定することは、とちぎ材の流通の維持拡大や風評被害を防止するうえで重要であるため、製材品の放射能濃度を検証する。

2 材料と方法

(1) 試料作製

試験体319体（スギ206、ヒノキ113）は、原発事故以降に伐採された地域別の丸太を原料とし、辺材・心材を問わずランダムに木取りした製材品（柱、板材等）を県内製材工場（栃木県木材業協同組合連合会会員）から収集
試験体を粉碎（粉状）して試料を作製



地域別の試験体数

地域	スギ	ヒノキ	計
県北	79	59	138
県西	95	46	141
県南	28	8	36
県央	4	-	4
合計	206	113	319

(2) 測定

（林業センター：169体，民間測定機関へ委託：150体）
測定機器：NaI(Tl)シンチレーション検出器
（日立アロカ社製 CAN-OSP-NAI）
測定項目：セシウム-134，137の放射能濃度
検出限界値：50 Bq/kg（セシウム-134，137 各 25 Bq/kg）



試料作製 試験体の粉碎



測定 NaI(Tl)シンチレーション検出器

3 結果概要

製材品319本（スギ206本、ヒノキ113本）において**すべて検出せず**（検出限界値未満）という結果が得られ、とちぎ製材品の安全性が確認できた。